



アイキューブドシステムズ<4495>、情報漏洩対策ソフト開発のワンビ<5622>をTOBで子会社化



アイキューブドシステムズは29日、情報漏洩対策ソフトウェアを開発するワンビにTOB（株式公開買い付け）を行い、子会社化すると発表した。議決権ベースで53.85%の株式を取得する。買付代金は4億2000万円。アイキューブドシステムズは情報漏洩対策として企業が業務で使うノートパソコンやスマートフォンなどの端末を統合的に管理するMDM（モバイルデバイス管理）サービスの提供を主力としており、相互送客・販路共有や開発協力を進めることでグループ業績の拡大につなげる。

買付価格は1株につき1200円。直前取引日である2024年1月11日の終値と同額とした。ワンビは1月1日に東証のプロ投資家向け市場「東京プロマーケット」に上場したが、これ以降、売買が成立していない。

買付予定数は所有割合47.43%にあたる35万株（下限も同数）。筆頭株主の加藤貴社長が所有する28.79%の株式をはじめ合計47.43%の株式についてはTOBへの応募が決まっている。この応募分を議決権割合に換算すると53.85%で、議決権の過半数を所有することになるという。

買付期間は12月2日～12月27日の20営業日。決済の開始日は2025年1月9日。公開買付代理人は岡三証券。

ワンビはTOBに賛同しているが、応募するかどうかは株主の判断に委ねることを決めた。同社の東京プロマーケットへの上場は維持される。